

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域文化論 Area Cultural		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ( )		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光学概論、観光事業論、地域観光論、経済学、日本の歴史と作法、国内観光地理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国際観光論、地域観光論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
地域文化の重要性を考えた後に、その現状と振興のための施策を概観する。その後、地域文化を教育や経済との関係で捉えその意義を考える。また、地域文化をより身近な事象としてとらえるために、佐野市の地域文化を具体的に取り上げる。				
授業の目標				
①地域文化の意義とその振興の重要性を説明できるようにする。 ②教育における地域文化の必要性を説明できるようにする。 ③地域文化と街づくりのための方策を考えて説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけ対話方式を取り入れて受講者の理解を深めたい。また、DVDなどの映像も使用して理解を深めたい。				
学習の成果（学習成果）				
地域文化に関する国および栃木県の振興施策を学習し、地域文化の教育および街づくりにおける地域文化の有効性と、自己が居住する地域社会を地域文化論の視点から説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	文化に対する一般的な理解と私たちの生活における文化の意義			
第3回目	地域文化の有用性と私たちの暮らし			
第4回目	地域文化の現状と課題			
第5回目	わが国における地域文化の振興について①（地域文化振興の本質的意義、地域社会を活性化する文化力）			
第6回目	わが国における地域文化の振興について②（地域文化の現状、民間における地域文化の支援、国における地域文化振興策）			

第7回目	教育における地域文化の意義	
第8回目	地域文化を活用した教育の事例（富山県富岡市、佐野市など）	
第9回目	街づくりにおける地域文化の意義 小テスト	
第10回目	地域文化や観光資源を活用した街づくりの事例（長崎県小値賀島、栃木県益子町など）	
第11回目	佐野市の地域文化①(佐野市の地理的条件と歴史風俗)	
第12回目	佐野市の地域文化②(佐野市に伝わるの匠の技：外部講師 人形工房吉貞 吉田 広氏)	
第13回目	佐野市の地域文化③(佐野に伝わる民話：外部講師 佐野民話の会会長北岡豊子氏)	
第14回目	佐野市の地域文化④(佐野に伝わる食文化 イモフライ ラーメン その他)	
第15回目	佐野市の地域文化⑤(佐野に伝わる陶芸品：外部講師 佐野乾山顕彰会会長 大澤米蔵氏)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準(S)としては、授業には無遅刻・無j早退・無欠席で授業に積極的に参加して、配布物資料以外の重要な事項についても主体的に調べ、授業での疑問点には進んで質問すること。
レポート	10%	最高水準(S)としては、外部講師の講演（第12回、第13回、第15回）の内容を適切に纏め、自己の考えに基づいて佐野の伝統文化の在り方を記述する。
調査報告書		
小テスト	10%	最高水準(S)としては、第9回目の講義に行う小テストで、これまでの講義で学んだ5つの基本的な専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
試験	70%	最高水準(S)としては、設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書は使用しない。授業のたびに必要な資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
授業中の私語は禁止する。基本的に欠席・遅刻・早退は認めないが、止むを得ざる時には申し出る事。		